

## 参考文献

### 1. 参考書籍（50音順）

テキストとして江戸川乱歩『江戸川乱歩全集』（光文社、2003-2006年）を使用する。「人間椅子」「屋根裏の散歩者」は全集第1巻(2004)、「陰獣」は全集第3巻(2005)に収録されている。

- 1、G.C.デビソン、J.M.ニール共著、村瀬孝雄監訳『異常心理学』、誠信書房、1998年。
- 2、石原千秋『テキストはまちがわないー小説と読者の仕事』、筑摩書房、2004年。
- 3、伊藤秀雄『昭和の探偵小説 昭和元年ー二十年』、三一書房、1993年。
- 4、江戸川乱歩 a『江戸川乱歩全集第24巻 悪人志願』、光文社、2005年。  
b『江戸川乱歩全集第26巻 幻影城』、光文社、2003年。  
c『江戸川乱歩全集第27巻 探偵小説四十年（上）』、光文社、2006年。
- 5、大久保典夫『大衆化社会の作家と作品』、至文堂、2006年。
- 6、大橋洋一『新文学入門』、岩波書店、1995年。
- 7、加藤諦三『自立と孤独の心理学』、PHP研究所、1988年、p.155。
- 8、桂万栄編 駒田信二訳『棠陰比事』、岩波書店、1985年。
- 9、北村薫『謎のギャラリーー名作博本館ー』、新潮社、2002年。
- 10、九鬼紫郎『探偵小説百科』、金園社、1975年。
- 11、ジェラルド・プリンス著、遠藤健一訳『物語論辞典』、松柏社、1991年。
- 12、長沢隆子「江戸川乱歩」、長谷川泉編『現代文学研究 情報と資料』所収、至文堂、1987年。
- 13、中島河太郎『推理小説展望』、双葉社、1995年。
- 14、中田耕治『中田耕治コレクション5 鞭打ちの文化史』、青弓社、1994年。
- 15、中村明『感覚表現辞典』、東京堂、1995年。
- 16、廣野由美子 a『批評理論入門「フランケンシュタイン」解剖講義』、中公新書、2005年。

- b 『視線は人を殺すか—小説論 11 講 (MINERVA 歴史・文化ライブラリー)』、ミネルヴァ書房、2008 年。
- c 『ミステリーの間人学—英国古典探偵小説を読む』、岩波書店、2009 年。
- 17、富田京一『山溪ハンディ図鑑 10 日本のカメ・トカゲ・ヘビ』、山と溪谷社、2007 年。
- 18、福田陸太郎・村松定孝『新編 文学用語辞典』、こびあん書房、1987 年。
- 19、傳博『謎詭・偵探・推理—日本推理作家與作品』、獨歩文化、2009 年。
- 20、細江光『谷崎潤一郎深層のレトリック』、和泉書院、2004 年。
- 21、前田愛『増補 文学テキスト入門』、筑摩書房、1993 年。
- 22、前田彰一『欧米探偵小説のナラトロジー ジャンルの成立と語りの構造』、彩流社、2008 年。
- 23、マルガレーテ ミッチャーリヒ著、杉村園子・関田淳子・後藤久子・柳沢ゆりえ共訳『女性と攻撃性』、新思索社、2007 年。
- 24、三橋順子『女装と日本人』、講談社、2008 年。
- 25、安田一郎著、宮城音彌編『現代心理学 4 人間性の心理学』、河出書房、1954 年。

## 2. 参考論文 (50音順)

- 1、江口雄輔「日本ミステリーの歴史における乱歩」(「江戸川乱歩の魅力—生誕100年〈特集〉」『国文学解釈と鑑賞』59、至文堂、1994年12月、pp.144-149)。
- 2、笠井潔「乱歩の探偵小説観」(「江戸川乱歩の魅力—生誕100年〈特集〉」『国文学解釈と鑑賞』59、至文堂、1994年12月、pp.23-28)。
- 3、川辺さやか「江戸川乱歩短編集に見る、視覚と触覚」(『藝文攷』12、2007年、pp.29-45)。
- 4、杉澤加奈子「『パノラマ島奇譚』論—身体変容と触覚への着目」(『国文白百合』32、2001年3月、pp.81-89)。
- 5、鈴木貞美「「陰獣」論」(「江戸川乱歩の魅力—生誕100年〈特集〉」『国文学解釈と鑑賞』59、至文堂、1994年12月、pp.94-102)。

- 6、鈴木貞美「江戸川乱歩、眼の戦慄—小説表現のヴィジュアルティをめぐって」(『日本研究』42、2010年9月、pp.187-214)。
- 7、高桑法子「乱歩の評論活動--ジャンルとしての探偵小説」(「江戸川乱歩の魅力—生誕100年〈特集〉」『国文学解釈と鑑賞』59、至文堂、1994年12月、pp.53-58)。
- 8、高橋世織「乱歩文学における〈触覚=映像〉の世界」(「江戸川乱歩の魅力—生誕100年〈特集〉」『国文学解釈と鑑賞』59、至文堂、1994年12月、pp.138-143)。
- 9、武田信明「「屋根裏の散歩者」論—「遊民」のまなざし」(「江戸川乱歩と夢野久作—魔都のモダニズム〈特集〉」『国文学 解釈と教材の研究』36、学灯社、1991年3月、pp.56-58)。
- 10、中島河太郎「江戸川乱歩と幻想文学」(「江戸川乱歩の魅力—生誕100年〈特集〉」『国文学解釈と鑑賞』59、至文堂、1994年12月、pp.10-17)。
- 11、永野宏志「飛行解説者(フライト・デコーダー)無限へ—江戸川乱歩『陰獣』における危機/恐慌的(クリティカル)な時空間について」(『武蔵野女子大学文学部紀要』2、2001年、pp.77-87)。
- 12、浜田雄介「『陰獣』論」(『國語と國文學』65、1988年8月、pp.47-59)。
- 13、藤田富士男「キャラクターの創造と変化—江戸川乱歩文学の魅力—」(『学校法人佐藤栄学園埼玉短期大学研究紀要』14、2005年3月、pp.21-31)。
- 14、毛利恵「神の悪戯:『陰獣』論」(『成城文藝』172、2000年10月、pp.1-17)。
- 15、横井司「『陰獣』論—江戸川乱歩における〈推理〉」(「江戸川乱歩と夢野久作—魔都のモダニズム〈特集〉」『国文学 解釈と教材の研究』36、学灯社、1991年3月、pp.62-64)。